

令和8年2月13日

長泉町議会議長 宮口 嘉隆 様

会 派 名 政和会

会派代表者名 植松 英樹



会派調査研究・研修報告書

このことについて、下記のとおり会派調査研究・研修を実施したので、報告いたします。

記

調査研究・ 研修者氏名	植松 英樹、下山 和則、大沼 正明、杉森 賢二 安田三津子、高田 昌直、土山 純、廣末 美香
調査研究・ 研修月日	令和8年1月26日(月)～令和8年1月28日(水)
調査研究・研修地 及び事項	(1)目的地(大分県大分市) 日 時 令和8年1月26 日 午後2時00分～午後4 時00 分 内 容 ① グリーンスローモビリティについて ② _____ ③ _____ (2)目的地(大分県玖珠郡九重町) 日 時 令和8年1月27 日 午前10時00分～午前11時30分 内 容 ① ここのえまち総合サービス株式会社事業現地 ② (九重夢大吊橋) ③ _____ (3)目的地(大分県玖珠郡九重町) 日 時 令和8年1月28日 午前10時00分～午前11時30分 内 容 ① ここのえまち総合サービス株式会社について ② _____ ③ _____
調査研究・研修地 内容等	別紙のとおり (1) 内容 (2) 現状 (3) 町行政との相違・留意点と、研修成果による提言 (4) 添付資料

8.2.13

302

調査研究・研修地内容

(1) 大分県大分市

令和8年1月26日(月) 14時 ~ 16時 大分市 都市交通対策課
グリーンスローモビリティについて

内容及び現状

大分市は県庁所在地で人口約47万人であり県内の43%が集中している。

温暖な気候と豊かな自然に恵まれた中核都市でとくに駅周辺の智弁性や商業施設の充実から今後も注目されているエリアである。

今回、大分市のグリーンモビリティ（公共交通の利用促進）について研修した。

この事業は住宅や病院、スーパーなどを運行し買い物や通院など日常の移転やお出かけに一般市民が利用している。

1日5～6便を運航してフリー乗車も可能として、左回り、右回りがあり定員先着順に12人で目的地の各場所へ手動運転で運行しスマートフォンにて位置情報を提供している。

質疑

① 無料で運行しているが利用者による評価は

20km/hの低速での運行のため、スタート時は渋滞等の苦情があったが、現在は周知住民に協力いただいている。

大通りを通過する場所では多くの車が連なってしまう場面があった。

② 複数ルートで運行しているが市内全体をカバーしているのか

市街地はJRの駅があることからバスなどの交通インフラが普及しているが、交通手段の少ない地域を運行している。

フリーで手を挙げれば乗車出来、通常生活には便利なツールとなっている
一般入札でタクシー会社3社が運用している。

③ 年間の費用は

おおよそ1億3千万/年（車体価格3250万円、維持費3160万円、保険3636万円、他3000万円）メーカーが遠距離のため故障等に修理に時間がかかるため長期間に運休となってしまう。

無料で運用しているため、費用対効果が分かりにくく感じる。

④ 将来の展望は

土日はイベント等により混雑してしまうため、運休となっているが臨時バスとして使用している。

対面乗車のため、コミュニケーションの場としても活躍している。

窓がなくオープンな車体なので冷暖房がなく、夏場は特につらいと苦情がある。

成果と提言

長泉町は令和5年1月から長泉清水循環線AとBコースの実証運航を実施したが、結果運行実績を得ることが出来ずに令和7年11月1日をもって終了の結論に至っている。

このことから大分市の公共交通を視察研修し当町の将来における公共交通サービスの在り方及びどのように対応すべきか統括し、政和会・議会活動を通し更に研鑽を重ね、引き続き有効なサービスの取り組みについて結果を出したく、当局に提言していきたい。

調査研究・研修地内容

(2) 大分県玖珠郡九重町

令和8年1月27(火) 10時 ～ 11時30分

ここのえまち総合サービス株式会社事業現地(九重夢大吊り)

内容及び現状

九重夢大橋

長さ390m、高さ173m、幅1.5m「日本一高さ」を誇る歩道専用の吊り橋です。目の前に日本の滝百選にも選ばれた震動の滝が雄大な大自然が望め、観光客が多く集まるスポットとなっている。

広い駐車場には観光バスが多く、来日観光客も多い。

駐車場は無料ですが、入場料金が発生し大人500円、所要時間は20～30分程度ですが吊り橋入口に係員を配置し混雑時は入場制限となる。

周囲には飲食店や土産物屋が並び、九重町のキャラクター「ミヤちゃん」グッズが販売されてりひと際目を引いていた。

調査研究・研修地内容

(3) 大分県玖珠郡九重町

令和8年1月28日(水) 10時 ～ 11時30分 九重町 観光・地域振興課

ここのえまち総合サービス株式会社について

内容及び現状

九重町は大分県の南西部に位置する町で、人口は約8千人であり地熱発電をはじめ豊富な資源を有し変化に富んだ無限に発展する可能性を秘めた町である。

この度視察した九重町総合サービス(株)は町民の「困った」に答えるための有償のサービスを拠点の観光施設で、受付業務や書く施設の維持管理また草刈り業務などを実施している。

質疑

- ① 町は100%出資しているがこの会社を立ち上げた経緯と理由は
行政の負担軽減のため年間6000万円で委託している。
高齢者率45.9%のなか、農地や空き家が増加していく現状を回避するために、民間でできることは民間で可能な限り行う。
- ② 行政サービスを目的としているが事業内容とまちの関与と今後は
総合サービスの役員を町職員が無報酬で3名置いている。
70歳過ぎても現役で活躍している人が増えていることや、社会福祉協議会に重複登録している人が多いため、人材確保が難しい。

主として芝刈りや剪定作業が多いが、他の団体が請け負えない作業の依頼が増加していて、高所での作業や危険作業などが増えているので対応が困難になってきている。

③ 事業に対する利用状況と作業員の確保は

リタイヤした方や農家やサラリーマンの方が休日の日にエントリーしているが、70歳前後と高齢の方が多い。冬季限定であれば若い年齢層の援助隊を確保できるが、草刈りなどが主なので冬季の作業が比較的少ない。

近年はファーマーズスクールを活用したり、移住体験で生産人口の増加に取り組んでいる。

成果と提言

九重町のこの事業は過疎化、高齢化対策の充実のためと持続可能なまちづくりのため総合サービス（株）を通じて例えば観光施設の案内、文化センターの管理などを町100%出資で「町民の困った」に答えるため実施されている。

わが町の場合「困った・高齢者対策など」をテーマとした場合、会員数約300人のシルバー人材センターがその役割を担う立場であると思われ、経験や知識技能を活かし様々な業務を実施している。今回研修した九重町の事業が当町のシルバー人材センターとは必ずしも全一致しないが共通点が非常に多く感じた。

駿河平や鮎壺の滝のような町内の自然を生かし、夢大橋のような集客できる施設を近隣の市町と協力して環境事業として運用できればと思いました。

今後このような行政サービスを実施行くには各自治体の実情に合わせた事業の実施とサービスの提供を図り発注者からリピートされるシステムの構築がなされるよう研究し当局に提言していきたいと考える。